

第三十一回(株)USEN 番組審議会 議事録

開催日時：平成 23 年 3 月 1 日 16:00～

開催場所：(株)USEN 青山セントシオンビル 1F
ボードルーム

出席者 委員：小林亜星、有馬祐行、山本武司、湯川れい子、富澤一誠、大林宣彦
放送局側：7 名

議事内容

1. 会社動向、放送事業についての報告

- (1) 第 47 期下半期を迎え、「5 つの事業、5 つの機能」を柱として、組織の再編を行った。現在の事業をしっかりと強いものにする取り組みを進めていく。
- (2) 放送事業においては、今一度音楽放送の素晴らしさを伝えていく。また、BGM の大切さを再確認し、BGM で空間を彩るという価値をお客様に提供していく。
- (3) 昨年 10 月 28 日には、音楽情報の発信基地として、USEN 本社ビル 1F に「USEN MUSIC GARDEN」をオープンした。
- (4) 4 月には番組改編を控えており、「K-POP 総合チャート」「R30」「R40」「R50」「FM COCOLO」等の新番組をスタートする予定である。

2. 番組課題

「R50」(4/1 スタート新番組) について

3. 番組審議

【放送局】

前回に続き、今回も放送開始前の番組が審議課題となっている。前回の「美食空間向けジャズ」は、当審議会における議論を採用音源の年代範囲設定や演奏楽器の選択に反映させた結果、お客様に大変好評をいただいている。今回の新番組「R30」についても、事前にデモ音源をお聴きいただいた印象をもとに議論させていただきたい。

【放送局】

「R50」は、50 歳代のリスナーをターゲットに、青春時代の思い出となっている楽曲を集めた新番組。過去に楽曲自体の発表年代やジャンルにフォーカスした番組はあったが、リスナーの世代にフォーカスした番組は不思議となかった。同様のコンセプトで「R30」「R40」もスタートする。実際の放送ではバランスをとるため邦楽と洋楽を交互に流すことを考えている。また、放送楽曲について、世代別の社内アンケートを実施しており、その結果も番組に反映させる予定。

【審議委員】

企画としては素晴らしいと思う。ネーミングもわかりやすくよい。しかし、例えば 50 代後半のリスナーの青春時代を考えると、中学生の頃に御三家ブーム、そして大学時代には GS を経てフォークブームにまで至っており、非常に聴いていた音楽のジャンルに幅がある。そこが難しいところか。また、絶対に外せない曲というものがあるので、まずはそれらを並べてほしいと思う。

【放送局】

確かに 50 代と言っても、50 歳の人が 15 歳の時と 59 歳の人が 15 歳の時、これだけでも 10 年の幅がある。その共通項を探らなくてはいけない難しさはある。

【審議委員】

自分は R50 世代ではないが、R50 世代の青春時代が 60 年代後半～70 年代であると想定すると、その頃自分が聴いていたのはビートルズであり全米トップ 40 だった。だから R50 のデモ音源の収録曲は（ビートルズや全米トップ 40 とは違うので）新鮮に感じられ、楽しめた。しかし、例えば R30 を考えると、中森明菜とモーニング娘。が同じ番組に入ってくると厳しい気がする。若い世代向けになるほど選曲が難しいのかもしれない。

【審議委員】

やはりもう少しコンセプトを整理すべきではないか。リスナーの属性をとっていても、世代以外に、地域性や性別が音楽的趣味を大きく左右する要因として存在する。これだけのバラエティをそのまま受け止めると番組としては厳しい。歌詞や曲による整理、また、個人向けなのか業務店向けなのかという基本的な整理が必要だろう。それから、尺の短い楽曲が並ぶと印象が散漫になるので、3' 30"～4'00" くらいのもので選んだ方がよいだろう。

【放送局】

楽曲のタイプがバラエティに富んでいると、特に並び順によっては聴きづらい場合がある。歌詞、曲による分けも考えなくてはならない。

【審議委員】

自分も R50 世代ではないが、R50 のデモ音源を聴きながら、「この曲は何だっけ？」と、その曲が流行した当時の日本の状況を思い出しながら、非常に気持ちよく楽しめた。しかし、洋楽が流れた途端にがっかりした。音楽になってしまっている。当時の日本は未来への夢を見つめながらも、先ほどの話ではないが、現在の USEN のように、足元をしっかりと固めようとしていた。しかし最近の音楽は、そういった初心を忘れて、現実をさらに突き詰め、突きつけてくる。音楽としては高度になっているのかもしれないが、BGM として聴くには辛い。せっかくこういったコンセプトの番組を作るのであれば、分け云々よりも BGM としての高揚感、空気感を追及してほしいと思う。

【審議委員】

基本的なことだが、これら新番組が番組表のどこに配置されるのか、わかりやすく告知することも重要である。様々な切り口に対応する音楽ライブラリとしても、USEN は重要な機能と役割を担っているが、今回事前に聴かせていただいた R-50 のデモ音源にはポピュラリティーのある楽曲が少ない気がする。

【放送局】

番組表では「R30～R50」はそれぞれ A-21～23 に配置される。また、ターゲットとしては業務店を訪れる顧客を想定している。それぞれの年代に対してポピュラリティーのある楽曲をしっかりと集めなくてはいけない。そういう意味でも社内アンケートから多様な意見が集まるのは楽しみである。

【審議委員】

これだけの多チャンネル放送を行っているのだから、もちろん往年のヒット曲にスポットをあてる番組があってもよい。しかしもっと BGM の原点を振り返るべき。日本人はアレンジを変えることに抵抗があるように思うが、例えばこの番組も、ピアノアレンジにした方がノスタルジックになるし、BGM としてよりよいのではないかと思う。

【審議委員】

細分化するだけでなく、お客様に何の目的で聴かせるのかという BGM の原点を大切にすべき。

【審議委員】

デモ音源は模範解答過ぎる気がしている。もっと乱暴というか攻撃的な発想が入り込む余地はないのだろうか。

【放送局】

行儀がいいだけでは深いファンを生むことができないのは事実。リスナーはこちらが予想ない様々な発見をしてくれることも多い。

【審議委員】

ユニークさが必要だ。いくつかでよいから、予定調和でない要素を入れることが重要。データから番組を作るだけではリスナーを満足させることはできない。

【放送局】

本日の議論から、現時点での R50 は、番組として作り手側の理屈が強くなってしまっているかもしれないという反省を得た。もっとお客様側の視点に立って、選曲を再考してもよいのではないかと考えている。